学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」――『論語・為政篇』

Newsletter No.76　　2023 年 10 月～ 12 月

JSPS Beijing

目 次

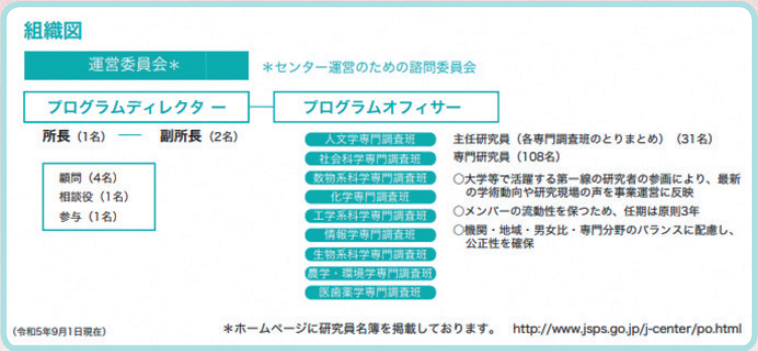
- センター長のコラム……2
- 活動報告……3
  - ・JSPS 中国同窓会河南支部会
- 活動記録（2023 年 10 月～ 12 月）……3
- 編集後記……4

編集・発行
日本学術振興会北京研究連絡センター

学術システム研究センターについて

12 月 20 日、東京の如水会館において開催された学術システム研究センターの創立 20 周年を記念するイベントに参加してきました。学術システム研究センターは、競争的研究資金制度改革の一環として 2003 年 7 月に JSPS に創設された組織で、日本のファンディングエージェンシーに研究経歴のある「プログラムオフィサー」等を配置することを提唱した政府の提言を踏まえて設置されたものです。今回は、JSPS において重要な役割を果たしていながら、その存在があまり知られていないこの学術システム研究センターを紹介してみたいと思います。

現在学術システム研究センターには、プログラムディレクターとして所長と 2 名の副所長が、プログラムオフィサーとして 108 名の主任研究員と専門研究員が配置されています。特筆すべき点は、これらのプログラムオフィサーが、大学等に籍を置く第一線級の研究者であることにあります。任期は 3 年間で、非常勤の研究員として、人文学・社会科学から自然科学までの全分野をカバーする 9 つの専門調査班のいずれかに配属され、それぞれの分野の特性を考慮しつつ業務にあたっています。



JSPS の公募事業に申請すると、その分野を担当する審査員がレビューすることになりますが、これらの審査員の人選を担っているのが学術システム研究センターの研究員であることはあまり知られていないのではないでしょうか。また、審査制度の検証・改善や事業の制度設計といった業務も担っており、さらには学術研究動向調査も実施しています。まさに、センターは高いレベルと深い見識を備えたシンクタンクとして JSPS の基盤を支える存在となっているといえます。なお、JSPS は、ボトムアップとピアレビュー（専門分野の近い複数の研究者による審査）を事業運営の基本原理としていますが、センター研究員が JSPS と研究者コミュニティーとの橋渡しとなることで、このピアレビュー制度の実質を支えるものともなっています。

このようなプログラムオフィサー制度は JSPS 独特のものであり、海外のファンディングエージェンシーにも例を見ません。海外の科学技術関係者と話をしていると、人文学と物理学など全く性格の異なる研究を対象分野に含みながら組織内に分野別の部局を持たない JSPS がどのように審査、選考をしているのかが話題になることがあるのですが、うまく説明できないまま終わったりしておりました。今になってこの学術システム研究センターの機能を説明すれば、より良く理解してもらえたのではなかったかと思ったりしています。

私は、2009 年から 2 年間にわたり、このセンターの事務局で働いており、20 周年記念イベントでは、その頃にセンター研究員をしていた先生がたと旧交を温めることができました。当時、ただでさえ教育や研究に忙しいところへ、次から次へとセンターの業務をお願いしなければならず、ずいぶん心苦しい思いをしたものですが、研究者コミュニティーを支えるという使命感から快く協力いただいており、その献身的努力に改めて感謝する次第です。いずれの先生も、センターでの経験やそこで培われた人脈がその後の研究者キャリアにとっても財産となっていると評価しており嬉しい限りですが、センターで働いていた者にとっても刺激に満ちた学ぶことの多い職場だったと思っています。

センター長　山口英幸

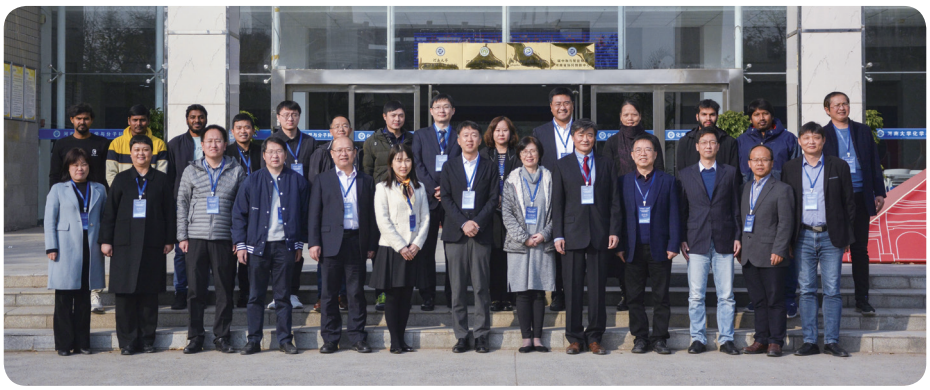
JSPS中国同窓会河南支部会

2023 年 11 月 12 日（日）河南市において JSPS 中国同窓会河南支部会シンポジウム「光電機能界面とカーボンニュートラル」を開催しました。

JSPS 中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS 中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は、河南大学の劉山虎教授がコーディネーターを務めました。会場となった河南大学の会議室には、多くの研究者や学生・留学生が集い、活発な意見交換が行われました。

シンポジウムの開会にあたり、関係機関の代表者にご挨拶いただいた後、JSPS 北京研究連絡センターの山口英幸センター長が登壇し開会の挨拶を、また、金子めぐみ副センター長が JSPS の実施している主要な国際交流事業について説明を行いました。各研究者が発表・報告を行ったセッションでは、JSPS を通じて日本から参加された東京農工大学・中田一弥教授も登壇し、講演を行いました。

なお、山口センター長・金子副センター長は説明会に先立ち河南大学校史館を見学したほか、国際協力・交流部の陳楠副主任、化学・分子科学学院の陳永明学院長を表敬訪問し、今後の河南大学と日本の大学との交流や日中の研究協力について意見交換を行いました。



集合写真

座談会の様子

今回、コーディネーターを務めた河南大学・劉山虎教授は、JSPS 中国同窓会の副会長を務めており（2022 年～ 2024 年）、積極的に同窓会活動を推進してくださっています。

JSPS 北京研究連絡センターは、引き続き JSPS 中国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会行事への支援を充実させ、日中研究者の学術プラットフォームの構築及び共同研究を推進していきたいと考えています。

センターの活動記録

（2024 年 10 月～ 12 月）

10 月

7 ～ 9 日　日本科学振興協会（JAAS）年次大会参加
25 日　広報文化十一者会出席
27 日　岡山大学日本語スピーチコンテスト後援

11 月

11 日　広島大学日本語作文スピーチコンテスト出席
12 日　JSPS 同窓会河南支部会開催
14 日　佐賀大学副学長来訪
18 ～ 19 日　「科学技術の現代化とイノベーション」シンクタンクフォーラム出席
20 ～ 22 日　A-HORCs（日中韓学術振興機関長会議）出席
21 日　広報文化十一者会出席
22 日　日中平和友好条約締結 45 周年記念レセプション出席
28 ～ 29 日　日中学長会議出席

12 月

3 日　韓国研究財団（NRF）北京事務所との日韓研究者交流会
8 ～ 9 日　CAS-JSPS 共催セミナー開催
11 日　名古屋工業大学吉田准教授来訪
16 ～ 17 日　NSFC-JSPS 二国間交流事業セミナー参加
19 日　JSPS 海外研究連絡センター長会議出席
20 日　中国日本商会理事会出席
21 日　中国日本商会工業部会第 1 分科会 12 月度定例会出席
22 日　広報文化十一者会出席

編集後記

昨秋はJSPS中国同窓会支部会セミナーで河南省の開封に出張する機会がありました。到着日前日までは南方らしくぽかぽか陽気だったようですが、到着日は真冬の寒さ、セントラルヒーティングも始まっておらず思わぬ寒さに見舞われました。開封には初めて訪問しましたが、戦国時代の魏国や北宋や金などの王朝が都をおいた都市で、歴史ある仏教寺院や文化遺産も数多くある魅力的な街でした。北宋時代には世界最大級の都市、東京（とうけい）として栄えたとのことで、「東京（とうきょう）から東京（とうけい）へようこそ！」と定番の？！歓迎を受けました。

上記支部会セミナーでも日本人研究者が研究発表をしてくださり、その他の機会でも多くの日本人研究者が訪中し学術交流を進めています。我々もその一助になるように、精一杯努めたいと思っています。

日本での年末は過ぎましたが、中国に滞在しているともう一度旧正月の年末があります。楽しい年末年始を二度も過ごせて得した気分です。新しい一年もどうぞよろしくお願いいたします。

副センター長　金子めぐみ

日本学術振興会 北京研究連絡センター
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路 89 号　中国外文大厦 A 座 404 室
郵便番号 :100089
Tel: + 86-10-8882-4331　　Fax: +86-10-8882-4332
E-mail: beijing@jsps.org.cn　　URL: www.jsps.org.cn

WeChat